

これまでの教育実践の蓄積



ICT



学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

一斉学習

「1人1台の端末」ではない環境

・教師が電子黒板等を用いて説明し、児童生徒の興味関心意欲を高めることができる

個別学習

・全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学習は困難)

協働学習

・グループ活動は可能だが、自分独自の意見は発信しにくい(積極的な児童生徒の発表の場に)

学びの進化

学びの転換

「1人1台端末」の環境

・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる
⇒児童生徒の一人一人の反応を踏まえたきめ細やかな指導、双方向型の授業展開が可能に

・各人が同時に別々の内容を学習できる
・各人の学習履歴が自動的に記録される
⇒一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に

・一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる
・各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる
⇒全ての児童生徒が情報の編集を経験しつつ、多様な意見も即時に触れられる

対応教材等(ソフト)

授業支援ソフト
「ロイロノート・スクール」
(導入済み)

AI型教材
(キュビナ)

「ロイロノート・スクール」



家庭地域



連携

学校全体

①「コグトレ」により、認知機能強化(学習の土台となる「見る力」「聞く力」「想像する力」を身につけさせる。)

②「i-check」による学びの基盤となる学級経営や児童生徒理解に活用

③「たかなべ学力調査」による学力分析及び個別最適化された事後復習教材(自主学習・家庭学習)の活用

